

Ⅲ 2012（平成24）年度「オープンクラス」実施報告

1. 実施概要

2011（平成23）年度より実施しているオープンクラス（公開授業）は、本学の教員が授業を参観することにより他の教員の優れた授業を参考とし、あるいは自らの授業への評価を仰ぎ、授業の質的向上を図ることを目的としている。

2011（平成23）年度には5科目・8回であった実施科目・回数は、2012（平成24）年度には14科目・15回となり、参観者延べ人数も2011（平成23）年度の57名から2012（平成24）年度には106名に増加した。

2012（平成24）年度は、新しい試みとして6つのオープンクラスにおいて、担当教員と参観者が授業の方法や内容について議論を行うディスカッションを実施した。

表Ⅲ-1 2012（平成24）年度 「オープンクラス」実施状況

| 実施日 | 講時 | 科目名 | 担当教員 | 教職員 参観者数 | 期別 合計 |
|-----------------------------|------------|---------------|--|-------------|-----------|
| 5月24日（木） | 2講時 | ホスピタリティ・スキルB | 岩田真理子准教授（英語英文学科） | 15名 | 前期 45名 |
| 6月8日（金） | 2講時 | 健康科学概論 | 萩原暢子教授（生活福祉文化学部） | 8名 | |
| 6月20日（水） | 2講時 | 言語文化概論 | 朱鳳准教授（人間文化学科） | 5名 | |
| 7月3日（火） | 2講時 | 心理学英文講読 | 藪内稔学長 | 9名 | |
| 7月5日（木） | 1講時 | 特別活動の指導法A | 工藤哲夫准教授（心理学部） | 8名 | |
| 11月7日（水） | 2講時 | キャリア形成B | 喜多泰子講師（キャリアセンター） | 5名 | 後期 61名 |
| 11月20日（火） | 2講時 | 教育方法学 | 神月紀輔准教授（心理学部） | 9名 | |
| 11月21日（水） | 2講時 | 日本年中行事論 | 堀勝博教授（人間文化学科） | 7名 | |
| 11月22日（木） | 2講時 | 心理学概論（心と社会） | 廣瀬直哉准教授（心理学部） | 8名 | |
| 11月22日（木） | 3講時 | 教育学A | 山本智也教授（生活福祉文化学部） | 4名 | |
| 11月24日（土） | 3講時 | 日本語の朗読 | 浜尾朱美先生（客員教授） | 4名 | |
| 11月26日（月） * | 2講時 3講時 | 日本語コミュニケーションⅡ | 松岡正美先生（客員教授） | 7名 | |
| 12月4日（火） | 2講時 | 小説の研究 | 小林順教授（英語英文学科） | 7名 | |
| 2013 （平成25）年 1月18日（金） | 3講時 | 生活福祉文化基礎演習Ⅱ | 山本智也教授、中村久美教授 竹原広実教授、加藤佐千子教授 三好明夫准教授、酒井久美子准教授 矢島雅子講師（すべて生活福祉文化学部） | 10名 | |
| | | | | 年間合計（延べ人数） | |

*11月26日（月）日本語コミュニケーションⅡについては、同内容の授業2回でオープンクラスを実施した。

2. 今後の展望と課題

2012（平成24）年度におけるオープンクラスは、実施科目／回数の増加に伴い、参加者数も大幅に増加した。全学的にオープンクラスについての教員の関心が高まっているといえる。また、オープンクラス実施後に授業担当者と参観者として授業に関する質問等の議論を行い、教員相互が学び合う機会となった。

授業担当者のアンケートによると、「参観者から多くのコメントをいただき、今後の励みになった」、「ご意見をいただき、今後の授業に活かしたい」、「教員側からは気づかない点がある。講義を見ていただくことは大変勉強になる」などの感想が出された。また、参観者のアンケートによると、「様々な工夫が分かり大変勉強になった」、「パワーポイントと資料はポイントを絞って作成され、分かりやすい」、「身近な例を交えての説明は分かりやすい」、「明瞭に話され聞き取りやすい」などの感想が出された。授業担当者と参観者が授業内容や方法の工夫している点や改善すべき点について意見交換を行うことは授業の質を高めるためにも継続していく必要がある。

オープンクラスの課題としては、「オープンクラスの日時が、担当授業と重なり参観することが難しい」、「オープンクラスが教員の意識改革のきっかけとなるよう、目的と方針を検討する必要がある」、「公開する授業を限定せず、すべての授業を対象としてはどうか」などの意見も出された。来年度はオープンクラスの実施授業数を増加し、より多くの教員が参加できるように検討していく。

文責：矢島 雅子（生活福祉文化学部 FD委員）